



SEIJIN



清仁保育園・清心保育園に おひさま発電所ができました！

清仁・清心おひさまプロジェクト



SEISHIN



社会福祉法人 清仁福祉会



清仁保育園

〒610-0111 京都府城陽市富野乾垣内67番地
TEL : 0774-53-1300 FAX : 0774-53-3511
URL : <http://www.jin.ne.jp/s/seijin>



清心保育園

〒610-0111 京都府城陽市富野荒見田4
TEL : 0774-55-0230 FAX : 0774-53-7225
URL : <http://www.jin.ne.jp/s/seishin>

このパンフレットは新エネルギー産業技術総合開発機構 (NEDO) の「新エネルギー革の根支援事業」の助成を受けて作成いたしました。
このパンフレットはリサイクル率100%の再生紙に大豆油インキで、風力発電による電力を使用して印刷しました。





清仁福祉会理事長
清心保育園園長

増田早苗

この「おひさま発電所」の設置に対し、皆さまよりあたたかいご支援を賜りましたことに深く御礼申し上げます。

清仁保育園と清心保育園は昨年それぞれ創立50周年、20周年を迎えました。両保育園は創立当初から、子どもたちが健康で心豊かに育つようにとの目的をもって毎日取り組んできました。とりわけ、健康を守るために食には気を使っております。また、日々の保育の中で物を大切にできるように教育を続けております。

しかし近年、オゾン層破壊や地球温暖化など地球規模の環境破壊も進行し子どもたちの未来が脅かされている事が明らかになっており、大変心を痛めていたところです。ちょうどそのような中、「きょうとグリーンファンド」や「気候ネットワーク」、「新エネルギー・産業技術総合開発機構」とご縁ができ、また地域の方々に支えられて、「おひさま発電所」を設置することができました。これを機会に、この地域で一人でも多くの方に環境に関心を持ってもらい、美しい地球をいつまでも残すことの大切さを知ってもらえればと願っております。園ではこれからも、良い環境教育の場となり環境を大切にすることも子どもたちを育ていけるよう、取り組みを続けていきたいと考えております。



清仁保育園園長

辛川千重

この園に通う子どもたちが育って行く未来の地球環境がきれいであって欲しい、そのような願いから今回「おひさま発電所」を設置いたしました。創立50周年の節目の時期にこの事業を実施できたことは、大変意義深いことだと感じております。

きっかけは、ちょうど1年前に「気候ネットワーク」にご協力いただいて開催した「地球の学校」という環境教育企画でした。この企画により、地域の方や保護者の方、職員がともに環境について学ぶことができました。その中で参加者からいただいた「先生、この園で太陽光発電ができるといいですね。」との言葉が、私たちの背中を強く後押ししてくれました。

設備を設置するにあたっては、東は東京、西は福岡まで、卒園児・園児の保護者・地域の方々・職員、そして「きょうとグリーンファンド」や「気候ネットワーク」に参加されているの方々など、多くの方にご支援をいただきました。誠にありがとうございます。

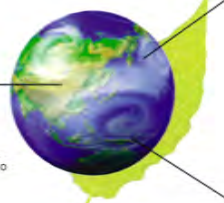
園の玄関には、発電量に応じて「てんとう虫」に明かりがつく表示板を設置いたしました。子どもたちはこれから毎日その表示板を見て、おひさまの力、自然の力を実感することでしょう。私も子どもたちと一緒に楽しみながらそれを感じてみたいと思っています。

見つめているのは、いのちの営みです。

清仁福祉会の目指すもの

いきる、ちから

毎日のくりかえしの中で、
基本的な生活習慣を身につけ、
生きようとする力を、たくましく育てます。



かがやく、いのち

環境を整え、愛情を注ぐことで、
よく食べ、よく笑い、よく遊ぶ、
子ども本来のかがやきを引き出します。

ゆたかな、こころ

人や動物、自然とのふれあいの中で、
豊かな感性をはぐくみ、
愛するところや信じる想いを培います。

こんな設備ができました!

清心保育園



最大出力約5kWの太陽光発電パネルです。
平均的な家庭が使う電気の約1.3倍の量の電気を、
太陽の光のエネルギーだけで作りだしてくれます。

太陽熱温水器も設置しました。
園内や、屋上のプールで使用する
お湯を、太陽の熱で沸かすことができます。



発電量の表示板です。
たくさんの電気ができるほど、
多くのてんとう虫に
明かりが「てんとう」します。



清仁保育園



太陽光発電パネルを、
清仁森の舎の屋根に設置しました。
屋根の向こう側にもパネルが付けられており、
最大出力は合わせて約5kWです。

清仁保育園・森の舎にそれぞれ一つずつ、
太陽熱温水器を設置しています。
熱が逃げにくい真空貯湯型の温水器です。



「おひさまのパワーで今日は何匹の
てんとう虫がつくでしょう。」
森の舎の玄関に、
発電量の表示板を 設置しました。



おひさま発電所ができるまで

「地球の学校」がこのプロジェクトの始まりでした。



2002年2月、「全国地球温暖化防止活動推進センター」と、温暖化防止を目的に活動をしている市民団体「特定非営利活動法人気候ネットワーク」の協力を得て、清仁保育園森の舎で「地球の学校」を開催いたしました。

「地球の学校」は、地球温暖化について考える4回連続の講座で、地域の方、父兄、園の保育士など、多くの人の参加により、充実した学習の機会となりました。



その第4回、「地域ぐるみで行う温暖化対策」の中で実施した、「地域の温暖化対策企画ゲーム」で、一つのグループから「この会場の屋根にみんなで力を合わせて太陽光発電パネルを設置しよう！それだけではなく、この園を地域の環境情報の発信基地にしよう！」という企画が提案されました。

これが、「清仁・清心おひさまプロジェクト」のきっかけでした。

多くの方のサポートにより企画を実現することができました。



「きょうとグリーンファンド」や「気候ネットワーク」との打合せの様子

市民共同の「おひさま発電所」づくりを支援している「きょうとグリーンファンド」や「エコテック」、「気候ネットワーク」の協力を得て、清仁・清心おひさまプロジェクトを進めてきました。

「地球の学校」での提案や「きょうとグリーンファンド」などのアドバイスをいただき、「できるだけ多くの人に関わっていただいて自然エネルギー普及の運動を盛り上げていこう」と、このプロジェクトは「市民共同」で実施することにいたしました。

その結果、「きょうとグリーンファンド」を通じて保護者の方、地域の方、自然エネルギーに関心のある方などから、約400件の寄付をお寄せいただき、その総額は約220万円にのぼりました。また、新エネルギー産業技術総合開発機構（NEDO）の「新エネルギー草の根支援事業」からの補助金をいただくことができました。

こうした多くのサポートの結果、きょうとグリーンファンドが支援する市民共同のおひさま発電所「3号機・4号機」としての設置が実現しました。

また「単に太陽光パネルを設置するだけではなく、それをきっかけとして、環境問題についてより多くの方と一緒に考え、行動を起こしていきたい」そんな思いから、「気候ネットワーク」と協力して環境問題、特に地球温暖化とエネルギー問題に関する学習会を開催してきました。



清仁保育園での学習会の様子

そしていよいよ、「おひさま発電点灯式」！

こうして、地域共同の発電所「おひさま発電所」が完成しました。そのはじめての発電の瞬間をみんなで祝おうと、「おひさま発電点灯式」を開催しました。

2/1 清仁保育園



名前の記入・記念撮影

園児や地域の人たちみんなで、パネルの裏に絵や名前を書き、記念撮影をしました。



ご挨拶・贈呈式

園長や関係者の方々の挨拶に続き、きょうとグリーンファンドより両園への「おひさま基金」と「おひさまプレート」の贈呈が行われました。



自然エネルギー・省エネルギー講座

太陽光パネルはなぜ発電できるのか、私たちが日常生活でできる省エネルギーの取り組みにはどんなものがあるのか、お話いただきました。



腹話術

地域の腹話術師の方に、腹話術を通じて温暖化とエネルギーについてお話いただきました。こどもたちも楽しんで聞くことができました。



そして点灯！

園児たちの「5・4・3・2・1・0！」の掛け声とともに始めて太陽のエネルギーで明かりをともしました。その後園児が歌を歌い、大人たちに環境保全をうたえました。

2/8 清心保育園



参加いただいた皆さまのコメント

「思い」が「かたち」に！

子どもたちが毎日通い、生活の場となる保育園に「おひさま発電所」ができました。多くの人たちの「思い」が集まって「かたち」になったのです。これから20数年、太陽の光から電気が生まれ、その電気を子どもたちが使います。毎年多くの子どもたちが保育園で時を過ごし、巣立っていきます。そうです。点灯式で歌を歌った子どもたちが大人になって、もしかしたらその子どもがまた、「おひさま電気」を使うかもしれない。その間に保育園で過ごした多くの子どもたちは、何かを感じてくれると思うのです。

考えてみれば、多くのおとなたちが1年近くの間大騒ぎをして「おひさま発電所」という形ができる、なるほどいろいろたいへんなこともあるのですが、点灯式の日おとなたちは感動してしまいます。そして、子どもたちはそんなおとなたちをちゃんと見ているような気がします。おとなとして、またガンバロっと思うのです。

大西啓子さん (NPO法人きょうとグリーンファンド事務局長)

大人こども両方への良い環境教育に！

地球温暖化問題などの環境問題が深刻化している中、環境を壊すことなく太陽の光で電気をつくる設備が園に設置されたことは、非常に意義深いことだと感じております。また、子供たちにもわかりやすい発電量の表示板が設置されたことは、子供への環境教育という面でも非常に良い効果があるものと思います。今回の取り組みにご協力いただきました皆様に、保護者の一人として厚く御礼申し上げます。

今回のおひさま発電所設置をきっかけに、私たちも家庭でのエネルギー消費を見直すなど環境対策に取り組んで行かねばならないとあらためて感じております。

藤井紋子さん (保護者会長)

おひさま発電は

子供たちが自然の魔法を学び

心を育み

心に太陽をともしることです

大槻憲男さん (城陽市在住・地球の学校や点灯式に参加)

大きな物語の大切な1コマ

清仁保育園のおひさま発電は、小さなお話かもしれませんが、でも大きな物語の大切な1コマだと思います。というのも、これは、さまざまところで市民の手による新しい社会に向けた変革が進みつつある中の、大切な一歩だと思うからです。そして、その変革の担い手が、たくさんの子供たちにも広がっているのです。子供たちとともに私たちは、それぞれに今を生きていかなければなりません。これからの暮らしを考えれば、今から未来を考えることをやめるわけにはいかないのです。再生可能エネルギーの行く方は厳しく、必ずしもばら色の未来を約束しているわけではありません。しかし、私たちは、着実に地球環境を大切にしたい暮らし方への道を歩み始めています。この歩みが、清仁保育園の子供たちから、さらに大きく広がって行くことを心から願っています。

新川達郎さん (同志社大学教授)

保育園という場所が活かされましたね

以前から地球環境のために何か運動をしたいとは思っていましたが、難しい問題に感じてしまかなか取り組めずにおりました。そんな折に開かれた「地球の学校」は、保育園という地域に根差した場所を会場にしていたこともあって、なごやかな雰囲気の中で多くの事を学ぶことができ、また参加者同士の話し合いも盛り上がりました。このことが、わずか一年での「おひさま発電所」設置につながったのだと思います。

「点灯式」では、腹話術のおかげで、大人と子どもと一緒に楽しみながら話を聞くことができました。保育園という場所でこのような取り組みを行うことは、とても意義が大きいと感じました。もっと広まるといいですね。

西本和可子さん (城陽市在住・地球の学校や点灯式に参加)

太陽のエネルギーを実感しました！

地球温暖化防止のために太陽光発電が有効であることは知識としては知っていましたが、今回の点灯式に参加し、太陽光パネルとそれによって作られた電気で点灯した光、発電量の表示板などを見てはじめて、太陽光のエネルギーというものを実感することができました。表示板が発電量に応じて「てんとう虫」が「点灯」するなど、自然エネルギーに詳しくない人でもとっつきやすい工夫がされているのがいいですね。

また、このプロジェクトが保育園だけでなく地域の人たち、また、きょうとグリーンファンドや気候ネットワークなどの団体のネットワークによってつづられていることがとても印象的でした。

森本純代さん (大学生・点灯式に参加)



Q. なぜ「おひさま発電所」を作ったのですか？

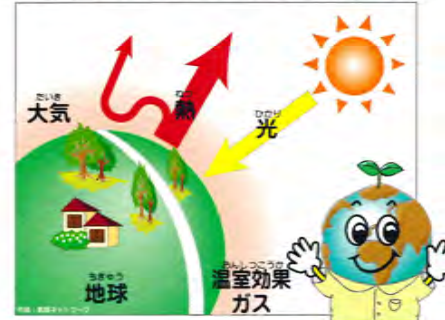
A. 「地球温暖化問題」や「エネルギー問題」の解決のためです！

現在、私たち人間が石油や石炭を大量に使うことで、これらの資源はどんどん減ってしまっています。また、これらを燃焼させたときに排出する二酸化炭素(CO₂)が主な原因で、「地球温暖化」が進行しています。これらの問題の解決に貢献し、子供たちの未来に良い環境を残すために、私たちは多くの人と力を合わせ、太陽の力で電気を生み出す「おひさま発電所」を作りました。

Q. 「地球温暖化問題」ってどんな問題なのですか？

A. 人間のエネルギーの使い過ぎで地球の気温が急激に上がることで、よって引き起こされる深刻な問題です。

温室効果ガスの濃度(濃さ)がちょうど良いとき



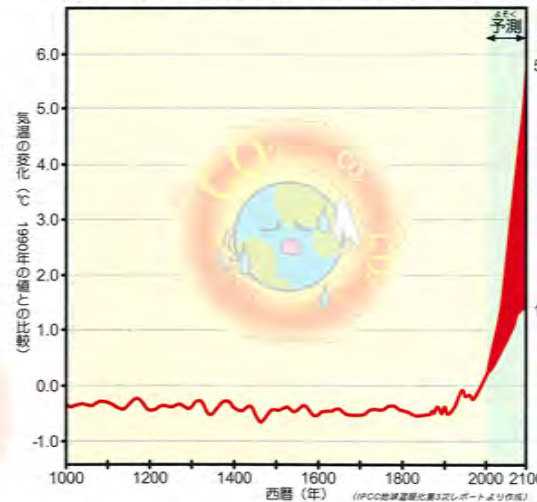
地球のまわりには、二酸化炭素など「温室効果ガス」と呼ばれる気体があります。この温室効果ガスが地球の服のような役割をして、地上の熱が全部逃げないようにしてくれているおかげで、地球は生物が生きられる気温に保たれてきました。

温室効果ガスの濃度(濃さ)が高すぎる時



しかし、近年、私たち人間が石油や石炭などの化石燃料を大量に消費するようになり、二酸化炭素の濃度が上昇したことが主な原因で、地表の平均気温が急激に上昇しています。これが地球温暖化です。

過去1000年間と今後100年間の気温変化



地表の平均気温は、2100年までに1.4~5.8度上昇すると予想されています。(予測に大きな幅があるのは、今後社会がたどるシナリオをいくつも想定しているためです)

左のグラフは、過去1000年間の気温変化と、今後100年間の気温変化の予測を合わせたものです。これを見れば、これから起こる気温の変化がどれほど異常なものなのかよくわかります。

温暖化問題は、単に「あつくなる」というだけの問題ではありません。気温上昇があまりに大きく、またあまりに急であるために、動植物は甚大な被害を受け、洪水や旱魃(かんばつ)などの自然災害も多発し、陸上の氷が溶けることなどによって海面が上昇して低地が水没し、また、食料生産にも被害が及ぶなど、深刻な被害が起こります。

こどもたちの未来のためにも、一刻も早く温暖化を止めなければなりません。

Q. 温暖化を止めるためには何をすればいいのですか？

A. 自然エネルギーを活用すること、エネルギーを無駄なく使うことが重要です。

自然エネルギーを活用する

化石燃料に頼らず、太陽光、太陽熱、風力、小水力、バイオマス(生物由来の資源)などの「自然エネルギー」を積極的に活用することが重要です。

エネルギーを無駄なく使う

エネルギーを無駄なく使うことも、重要な温暖化対策です。家電製品を選ぶときにできるだけ効率の良い製品を選ぶというだけでも、大きな省エネを達成できます。もちろん、無駄な電気を消す、待機電力をカットするなどの取り組みも立派な温暖化対策です。